



Fukuoka Prefecture

# 福岡

7月27日、福岡県内のホテルで福岡在住で市にゆかりのある9人の方と福井副市長との意見交換を行いました。

会では市から今後の人口の動態や地方創生の取り組みの現状についての説明が行われた後、出席者からは次のような意見が出されました。



7月27日：福岡県  
7月29日：東京都  
7月30日：大阪府

必要。これまでの広告媒体はテレビであったが、今はインターネットやSNSが主である。

【山下】 鹿屋の売りは「だっきしょ」などがあると思うが、いかにしてマーケットにPRしていくかが重要。青果を取扱っているが値段の違いは、やはりプ

ランドであり、同じ人参でも長崎のものが高い。鹿屋は生産物はあるがブランドになっていない。ブランド化や宣伝をパッケージにしてやれば効果的。また、宿泊施設が無いのはネックであるが、観光客誘致はきつかけが必要。例えば田舎であることをアピールすればいい。

【進藤】 ドイツからお客さんを鹿屋に連れて行ったことがあるが、結局車がないとどこにも行けない。交通費が高つくので前回は大隅地域レンタカー無料プランを使ってもらった。



南九 代表取締役  
山下 伸也さん



マルクト  
進藤 樹里さん

【本房】 観光については、東京や福岡の観光に飽きた外国人が、そのうち鹿屋に来ると思う。また、人を増やすための施策であれば産業しかないが、流通に経費がかかるのではないかと。鹿屋



食楽酒場のだや  
野田 文志さん

スポーツを通じたまちづくりについて

【吉村】 佐多岬などがありツーリングの人は多い。ゲストハウスとして閉校した学校などを活用できないか。美味しい食事ができて、安く泊まれるところがあれば。

【吉岡】 垂水から実家がある高隈まで自転車帰った。桜島の灰が厄介である。ロードコースをしっかりと決めて常に掃除をやるぐらいでないかと。



西日本新聞社  
鳥越 博文さん

【鳥越】 ツール・ド・おおすみなど自転車も良いが一日だけのイベントではダメである。普段からの活動が必要。そうすれば大会以外でも人は来る。健康ブームでもありスポーツへの参加、関心は高い。

地方創生とは？

わが国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の集中を是正し、それぞれの地域で住みやすい環境の確保を行うことと、将来にわたり活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題となっています。

このため国では、平成26年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、同年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。また、同法において都道府県及び市町村（特別区を含む）における「地方版総合戦略」の策定が努力義務とされました。

## ～意見交換会を行いました～

# かのや 故郷への想いを 地方創生の ヒントに

全国各地で人口減少対策や地域活性化策などが課題となっており、国をあげて地方創生に取り組んでいるところです。本市でも、現在これらの課題解決に向けた「総合戦略」の策定を進めています。策定にあたり、幅広い意見を聴くことが重要であることから、東京・大阪・福岡等、都市圏で活躍する本市にゆかりのある方々と意見交換を行い、外からの視点で本市の魅力や課題を把握するとともに、地方創生を進めるための意見等をいただきました。

市政策推進課（3階） ☎ 31-1125

はアピールが足りない。想いを地元に還元したい人は多いと思う。そういう人にアプローチをすべき。



アイ・ビー・キャピタル 代表取締役  
ほんぼう 周作さん

【吉岡】 案内や看板、無線LANといったインフラの用意も必要で特に英語の案内板は大切。海外に行くがアクセスが違う。コンパクトシティになっており街が凝縮されている。鹿屋は面積が広すぎるので、街としての要素がばらばらだ。また都市部にアンテナショップなど、鹿屋の情報にとれるところが必要では。



九州大学大学院 助教  
ひろあき 吉岡 宏晃さん

【吉村】 かのやばら園内でカンパチが食べられるなど、道の駅のようなものがあればリピーターも増えると思う。体験できたり子供たちが遊べる大きな遊具もあれば、景色が良い場所な

ので癒しにもなる。田舎の体験や良さは都会の人にとって魅力



ママデザイン  
吉村 真由美さん

である。

【大塚】 地元の人は悪いところが目がつくが、自分たちから見ると戦争遺跡など、こんなものもあるのかという感じである。やり方はいろいろあるのではないかと。かのやばら園、戦争遺跡など観光地と相乗効果を図って

いくべき。ただし運送費はネックである。



岩田産業㈱ 6次化産業支援室 室長  
大塚 武幸さん